

2020年度 学校法人修道学園事業計画達成状況
 <広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校>

2021年3月31日現在

○:実施完了した △:実施継続中である ×:実施できなかった

主要項目	具 体 策	達成状況	所管 部 局	実施月	達成 状況 ○△×
I 学校組織力の強化					
1 運営・組織体制の充実	①建学の精神と教育目標に基づく「3つのビジョン(教育・学校経営・教職員)」を推進し、達成に努める。	毎月の各部会を通じて確認作業を実施し、3つのビジョンにおける一定の成果が見られるように努力がなされた。	管理職、校務運営委員	年間	○
	②建学の精神と教育目標に基づいた教職員の行動指針「協創スタンダード」を継続的に遂行するよう努める。	「凡事徹底、進取果敢。」のもと、年間計画に基づいた業務の中で推進を図った。コロナ禍の中、計画通りの業務遂行が難しかったものの、行動指針を確認し合うことができた。	管理職、校務運営委員	年間	○
	③校務運営委員会機能の充実を図り、学校組織の活性化に資するようにする。	校名改称及び共学化の完成期に向けて、後期はさまざまな学校改革の審議がなされるなど、有機的な議論が展開された。	管理職、校務運営委員	年間	○
	④事業計画に基づいた学校経営計画の作成と校務運営の円滑化とその評価。	コロナ禍にあり、学校休業対策、学校行事の変更や中止への対応など、苦慮するところが多々あったものの、滞りなく校務が運営された。	管理職	年間	○
	⑤各部、中学校、学年、コース、教科の昨年度の課題を踏まえた経営計画の作成とその評価結果の分析及び改善策の策定。	各担当部署において課題を踏まえて業務が遂行されたが、予定通り実施されなかったものがあった。それらについては次年度の計画として検討していくことになる。	各部長、各主任	4月・10月	△
	⑥自己申告書(全教職員)の提出と管理職によるヒアリングの実施によって、学校運営等の共有化を図る。	自己申告書に基づいてヒアリングを実施し(5月には非常勤講師も)、学校運営の共有化を図ることができた。	管理職	5月・10月	○
2 教職員研修の実施と充実	①マネジメント研修(主任・部長別、年齢層別)を実施し、学校経営を展望する。	若手教員の人材育成を兼ねたマネジメント研修を実施できた。その後、5つのワーキンググループを立ち上げ、学校改革の土台作りを行うことができた。	管理職	6月	○
II 教育力の強化					
1 1.教員の資質と指導力の向上	①自己申告による目標達成に向けて、自己研鑽の状況を適宜面談にて確認する。	5月・10月の定期的なヒアリング以外にも適宜面談の機会を設定し、目標達成状況について確認することができた。	管理職	年間	○
	②毎月2～3回実施される「報連相」(連絡会)におけるミニ研修(研修報告等)を充実させる。	コロナ禍、研修機会が極端に減少し、ミニ研修会も減少した。	管理職	年間	△
	③所属教科及び所属教科外の授業参観による自己研修を実施する。	1学期は学校休業となって授業参観が実施できなかった。2学期は公開授業研究会に向けて、授業担当者同士の授業参観を行うことができた。	管理職、教務部	年間(定期)	△
	④国語・社会・数学・理科・英語の教科指導の工夫・改善のため、広島修道大学との連携による定期的な研修会を継続する。	11月に実施した公開授業研究会に向けて、広島修道大学及び他大学の先生との連携を図り、指導・助言をいただいた。	管理職、教務部	年間	○
	⑤指導力向上のための校内研修会の実施と校外研修会への計画的な参加の推進。	教科指導法の改善に関する校内研修会を実施することができた。しかし、校外研修会への参加は難しい状況にあった。	管理職、教務部	年間(定期)	△
	⑥11月に実施される公開授業研究会に向けて計画・準備を整え、滞りなく開催できるように関係部署で連携を図る。	隔週1回、授業実施者、教務担当者、管理職との打ち合わせを実施し、連携を図りながら公開研を実施することができた。	管理職、教務部 他	11月	○

主要項目	具 体 策	達成状況	所管 部局	実施月	達成 状況 ○△×
Ⅲ 学力の向上					
1 進路目標実現に向けた方策	<p>①進路指導計画(進路シラバス)の作成と進捗状況の確認をする。</p> <p>②進路数値目標の設定及び達成に必要な課題等を各教科・部署で確実に共有する。</p> <p>③クラッシーを活用したポートフォリオの作成やスタディサプリによる学びなどを拡充する。</p>	<p>進路シラバスの作成に着手したものの、学校休業などの影響により、完全なものとして作成に至らなかった。</p> <p>学校休業の影響があったものの、附属校推薦希望者への指導は例年通り実施できた。また、昨年度未達だった国立大学合格者(2名)を出すことができた。</p> <p>スタディサプリを全員が視聴できるようになり、学習環境は向上した。また、到達度テストを全員が受験できた。さらには、高校1年生対象の冬期講習を実施することができた。</p>	進路指導部	年間	×
2 学力伸長に向けた方策	<p>①生徒が朝読書を万全に取り組めるよう、活動の点検と指導を徹底する。</p> <p>②探究的な学び(エミット学習)、ICT教育(iPad導入)などの学びを推進し、新たな教育(学習)法なども模索する。</p> <p>③教科ごとに明確な経営計画を作成し、生徒の学力伸長に向けて効果的な学習指導を推進する。</p> <p>④中学校及び高校各コースに応じた学習指導と進学指導を適切に強化する。</p>	<p>毎日、状況を把握した。読書体制は概ね良好だが、一部の生徒が常に本を持参する状況になっていない。もう少し徹底した読書活動を促すような新たな企画を検討したい。</p> <p>休業中に授業や学校生活に有効なアプリや機能の研究・紹介・導入はできた。また、公開研の際に、探究的な学びや効果的なICTの使い方についての提案ができた。すべての教員が参加できた。</p> <p>各教科での模擬試験の結果などを参考にした教科経営計画や教科シラバス、数値目標の作成はできた。しかし、模試の結果や共通テストの結果を見ると十分な効果があげられたとは言えない。</p> <p>中学校は、生徒の資質や能力を高めるため、各教科との連携を継続的に行った。特に2年生で導入した習熟度授業における教科連携は繰り返された。高校1年生は次年度からのコース選択説明会を実施し、指導の方向性について共有できた。</p>	協創教育部、国語科、LRC	年間	○
			協創教育部、教務部	年間	○
			教務部、各教科主任	年間	△
			教務部、進路指導部、各主任	年間	○

主要項目	具体策	達成状況	所管部局	実施月	達成状況 ○△×
IV 協創教育の推進					
1 次世代教育の推進	<p>①探究型学習や次世代教育(ICTを含む)の推進と共に今後の方向性を研究する。</p> <p>②探究科で展開する新たな学び(ICT活用、課題研究等)のシラバス作成と学習活動の実施。</p> <p>③高校国内研修旅行の企画・立案及び事前事後学習指導の実施。</p>	<p>校外研修はほとんどがオンラインになり、出張を伴わず研修ができるようになった。しかし、研修状況の把握ができなかったため、今後の方向性の研究がなされたかどうかは難しい。</p> <p>学校行事や修道大学との連携によるプログラム構成が多いため、コロナ禍による予定の変更や中止によって、シラバスや学習活動に変更や修正が求められた。そのため、やや期待通りの展開ができなかったのは否めない。</p> <p>2020年度、東北・沖縄コースでの実施を計画したが、コロナ禍によって中止となった。2021年度は海外研修を取り止め国内(南信州・北海道)で計画している。</p>	協創教育部	年間	△
2 国際理解教育の推進	<p>①広島修道大学との連携による各種国際交流活動の企画と推進。</p> <p>②海外提携校との交流活動の企画と運営。</p> <p>③海外研修制度(語学研修、ホームステイ、現地交流等)の案内と参加の推進。</p> <p>④高校海外研修旅行の企画・立案及び事前事後学習指導の実施。</p>	<p>コロナ禍の中、すべてのプログラムが中止となった。</p> <p>すべてのプログラムが中止となった。韓国・フィリピンについては、来年度何らかの活動を行うべく、準備を行っている。ポートランドについてはオンライン英会話の提案があり、トライアルを行った。</p> <p>すべてのプログラムが中止となった。フィリピンへのオンライン留学を実施。春休みには国際理解プログラム(オンライン&対面)を中学生・高校生それぞれに実施した。</p> <p>2020年度のベトナム・カンボジアへの研修旅行は中止。2021年度についても実施しないことに決定している。</p>	協創教育部	年間	×
3 社会参画教育の推進	<p>①探究科「課題研究」の1テーマとして地域参画を設定し、その研究に対する指導・助言を行う。</p> <p>②地域清掃などの地域貢献活動への参加(広島修道大学との連携を含む)を促す。</p>	<p>探究科(茶道)において、保護者の招待を企画しているが、未定。来年度、「Locus」(マイナビ)を高1探究に導入し、広島の企業を訪問しての探究学習を実施する予定にしている。</p> <p>各種ボランティアが中止となった。</p>	協創教育部	年間	△
			協創教育部	年間	×

主要項目	具体策	達成状況	所管部局	実施月	達成状況 ○△×
V 自立(律)心の育成					
1 規範意識を育むための生徒指導の実践	<p>①男女共学化に伴い、日常の指導や対策は勿論のこと、全校集会、学年集会等を通じて従前以上に生徒の意識向上を図る。</p> <p>②建学の精神と教育目標に基づいた生徒の行動指針を「協創スタンダード」にまとめ、校内外に示す。</p> <p>③安全教育(交通安全、薬物、校内安全等)及び性教育等の各種講演会を通じて生徒の意識や徳性の向上を図る。</p> <p>④携帯電話・スマホの校内持ち込み許可に伴い、その正しい使用法やSNSの正しい利用法についての指導を徹底する。</p>	<p>全校朝礼、学年集会等を通して安全・マナー・規律・風紀等の指導を行ったが、Zoomでの指導や学年別での指導しか行えず、十分に徹底できなかった。</p> <p>「AIM HIHG」(高みを目指す)を教室内外に掲示したり、Tシャツ(背中にプリント)を作るなどして、生徒の想いを高めるようにしている。</p> <p>交通安全教育は中止。自転車通学者の講習及び実技指導を4月に実施。薬物乱用防止教室、性教育(中学生対象)は中止。</p> <p>講師を招いての実施ができず、9月にYou Tubeを利用し、オンラインで各HRにて実施した。</p>	<p>生徒指導部</p> <p>管理職 生徒指導部 (生徒自治会) 生徒指導部</p> <p>生徒指導部</p>	<p>年間</p> <p>年間</p> <p>各年1回</p> <p>年間</p>	<p>△</p> <p>○</p> <p>△</p> <p>○</p>
2 学校生活の活性化	<p>①部活動の加入率を高めるための対策を講じると共に、文武両道の方向性を示し、有意義な学校生活のあり方を推進する。</p> <p>②生徒自治会の活性化のため、役員の行事(体育祭、文化祭、クラスマッチ等)企画能力、運営・実践能力の向上を図る。</p> <p>③生徒が主体的に行事に参加する機運を高めるための方策を継続的に検討する。</p>	<p>6月に2会場に分かれて新入生に対して部活動紹介を実施し、加入の意義を唱えた。部活動加入率:高校72.6%(1年65.7%、2年77.3%、3年73.8%) 中学83.1%(1年72.4%、2年94.3%、3年84.6%)</p> <p>コロナ禍の中、生徒自治会主体の企画・運営はほとんどできなかった。</p> <p>毎週月曜日に定例の生徒自治会役員会を開催し、検討している。</p>	<p>生徒指導部</p> <p>生徒指導部</p> <p>生徒指導部</p>	<p>年間</p> <p>年間</p> <p>年間</p>	<p>○</p> <p>△</p> <p>○</p>
3 教育相談活動等の充実	<p>①SC(スクールカウンセラー)の活用とSCと連携した担任の生徒面談の実施。</p> <p>②SCと各学年との連携のための連絡会(ケース会議)の設置と実施。</p>	<p>欠席が多い生徒や不安を抱えている生徒に対して面談を行っている。教育相談利用者は、生徒はのべ30名、保護者はのべ14名であった。</p> <p>学年主任及び担任との連絡会を10回行った。</p>	<p>生徒指導部</p> <p>生徒指導部、学年主任</p>	<p>年間</p> <p>各学期</p>	<p>○</p> <p>○</p>
VI 情報発信力と募集力の強化					
1 年間を通じた計画的な情報の発信	<p>①ホームページ及びその更新が情報発信の最たる手段との認識のもと、継続的な発信と更新を強化していく。合わせて、「協創通信」の定期的な発行を継続する。</p> <p>②PTA、同窓会への本校の情報発信と連携の強化を図る。</p>	<p>中学・高校とも各学年の取組みを紹介している。ほぼリアルで紹介できている状況である。ブログは中学校に比べて高校の更新回数がやや少ない。この点を課題として次年度に向けて取り組む。</p> <p>コロナ禍にあり、PTA活動が行われず、連携は難しかった。</p>	<p>管理職、企画広報部、庶務部</p> <p>庶務部、総務課</p>	<p>年間</p> <p>年間</p>	<p>○</p> <p>×</p>
2 保護者及び生徒との信頼関係の構築	<p>①保護者及び生徒へのアンケートを実施し、その結果による改善策等の提示を確実に行う。</p>	<p>夏の保護者懇談会で中3及び高3の保護者には実施。残りの学年の保護者には、アンケートが実施できなかった。生徒・教職員にはアンケートを実施し、その結果の共有化を図った。</p>	<p>教務部、庶務部</p>	<p>7月、12月</p>	<p>△</p>
3 募集・広報活動の継続的な展開	<p>①校名改称、男女共学化2年目。これまでの募集活動成果を決して絶やさないう、継続的な広報活動を展開する。</p> <p>②広報活動に加え、「協創フォーラム」を実施し、ブランド力の充実に資するようにする。</p>	<p>コロナ禍で対面による広報がままならなかった中、生徒をキャスターにして作成した学校紹介動画、複数回にわたるweb広告などを展開した。功を奏し、オープンスクールには昨年を上回る参加者があった。</p> <p>コロナ禍の中、開催できなかった(第1回、2回は準備まで行った)。</p>	<p>管理職 企画広報部</p> <p>管理職、企画広報部、協創教育部</p>	<p>年間</p> <p>年3回</p>	<p>○</p> <p>△</p>

主要項目	具 体 策	達成状況	所管 部局	実施月	達成 状況 ○△×
VII 施設設備の充実と環境整備の改善					
1 中学校棟の建設	①2021年度末完成に向けて万全な準備態勢を整える。	建設開始当初は、地盤から想定外の杭が見つかるなど工事の遅れを心配したが、清水建設との緊密な連携により対応策を検討した後は順調に工事が進み、予定どおり3月1日に建物の引渡しを受け、3月30日に竣工式を執り行うことができた。また、校舎内のレイアウトや家具等については、教職員自らが考え選定した結果、使い勝手の良い建物とすることができた。	財務課	年間	○
2 Wi-Fi環境の整備	①中学1,2年、高校1,2年のタブレット使用に伴い、快適な接続環境を整備する。	ipadのフィルタアプリの見直しなど、これまでの環境を見直した結果、快適な接続環境を整えることができた。	財務課、ICT 委員会	年間	○
3 事務システムの改善	①給与システムと財務システムの運用のマニュアル化を行い、幅広い活用を行う。	財務システム及び給与システムのマニュアルは完成した。	総務課、財 務課	年間	○
VIII その他					
1 学校創立80周年行事の準備	①2021年度に学校創立80周年を迎えるにあたり、記念行事の立案・準備をする。	日程については決定したが、具体的な内容までは詰められていない。	管理職、庶 務部	年間	△
2 新型コロナウイルス感染症による中長期的な休業を想定した財政的支援	①ICTを活用した授業の推進と生徒の自学自習習慣の定着を図るための財政的支援を行う。 ・Wi-Fi環境のない家庭に対する光回線敷設のための財政的支援 ・全生徒を対象としたオンライン講座の受講(スタディサプリ)	Wi-Fi環境のない家庭に対し、光回線敷設のための初期費用を学校で負担した。また、全校生徒にオンライン講座(スタディサプリ)を受講させ、その受講に掛かる費用を学校で負担した。こうした取組により、オンライン学習の環境が整った。	管理職、財 務課	年間	○